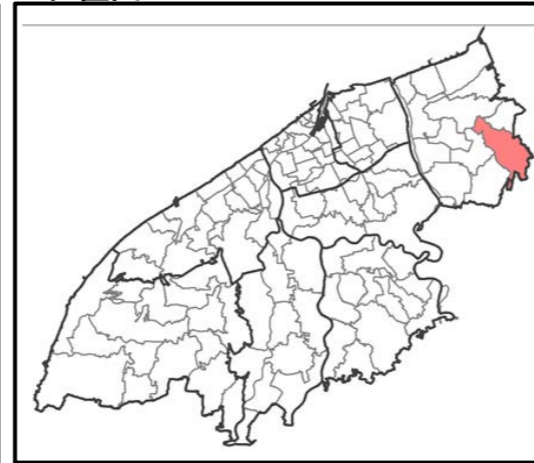


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

Table with 2 columns: Address (e.g., 朝日町1~4丁目), and another column (likely ward name).

●位置図

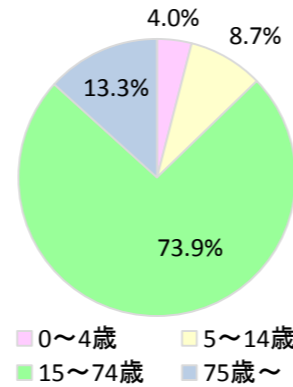


●施設・団体

Table listing facilities and organizations: 市役所・区役所等, 警察・消防, 消防団, 水防倉庫, 一時避難場所, 広域避難場所, 主利な用要施設配設慮者.

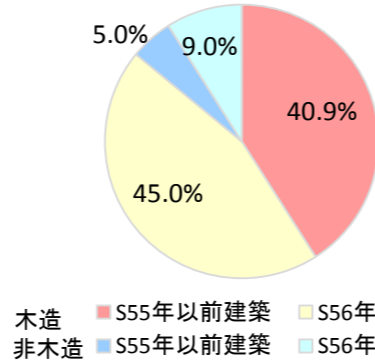
●人口

Table with population statistics: 総人口, 0~4歳, 5~14歳, 15~74歳, 75歳~, 65歳以上人口, 世帯数, 一世帯あたり人口, 人口密度, 昼間人口.



●建物関連指標

Table with building-related indicators: 総棟数, S55年以前建築, S56年以降建築, 非木造, S55年以前建築, S56年以降建築, S56年以降建築物.



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

Table listing evacuation sites within the district: 施設名, 標高(m), 階数, 地震, 津波, 洪水, 土砂災害.

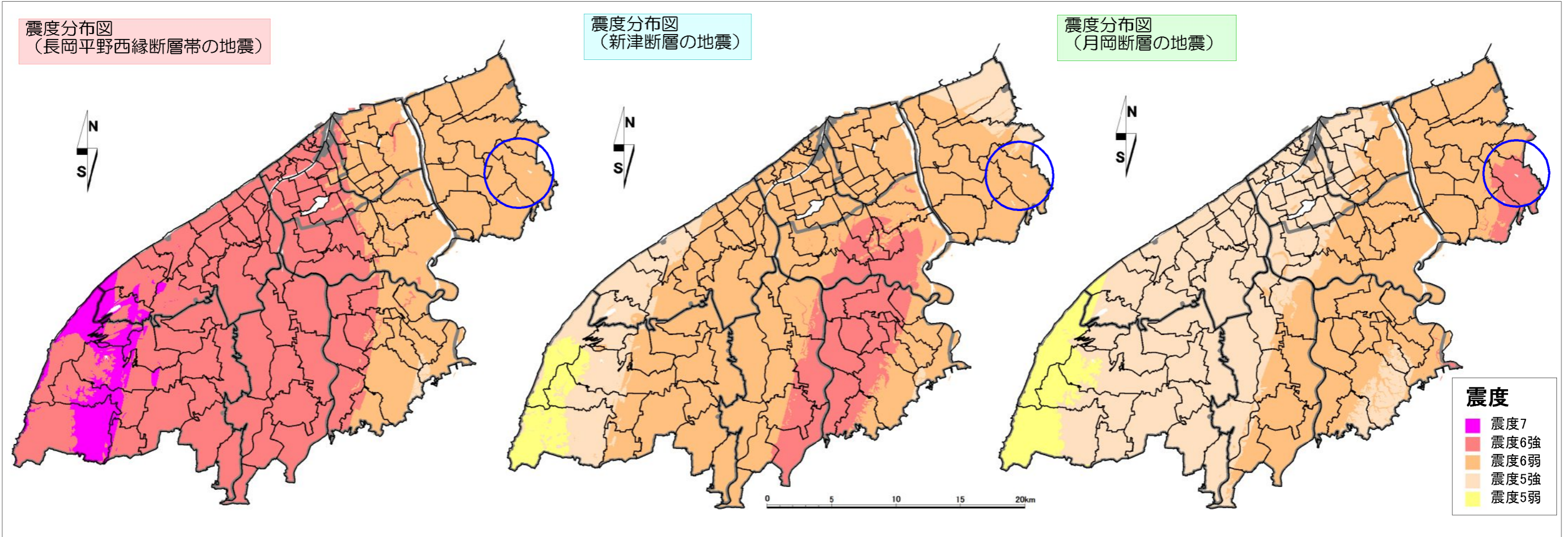
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

Table listing evacuation sites outside the district: 施設名, 標高(m), 階数, 地震, 津波, 洪水, 土砂災害.

避難の可否(災害ごとに表記): 開設する施設を「○」、避難可能な階数を「○」、開設しない施設を「-」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

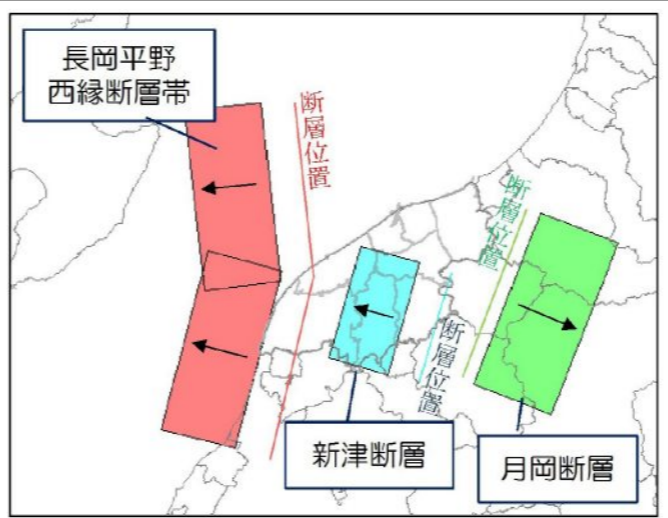
Table evaluating disaster risks: 地震・津波, 水害・土砂.



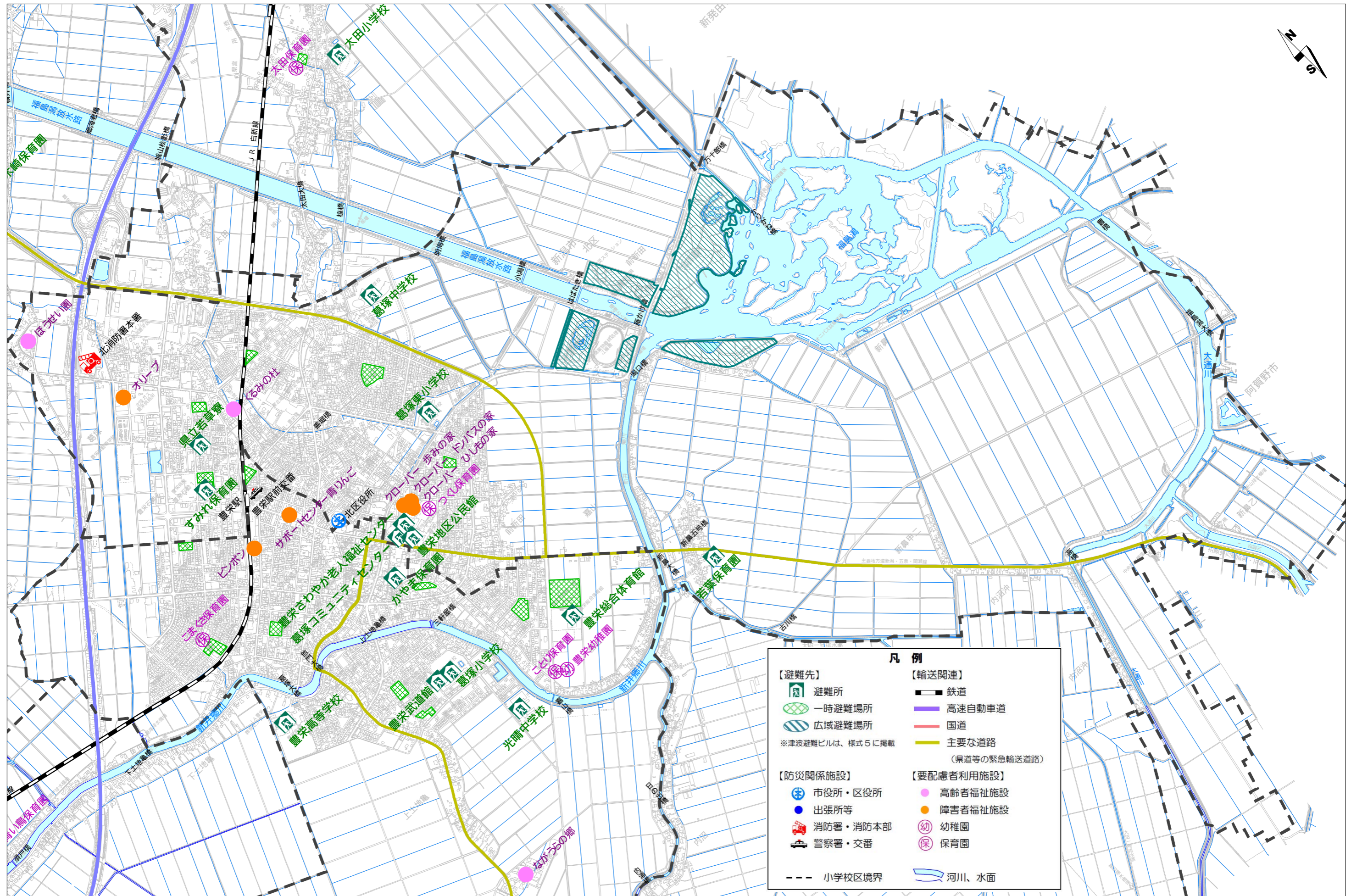
	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。
【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



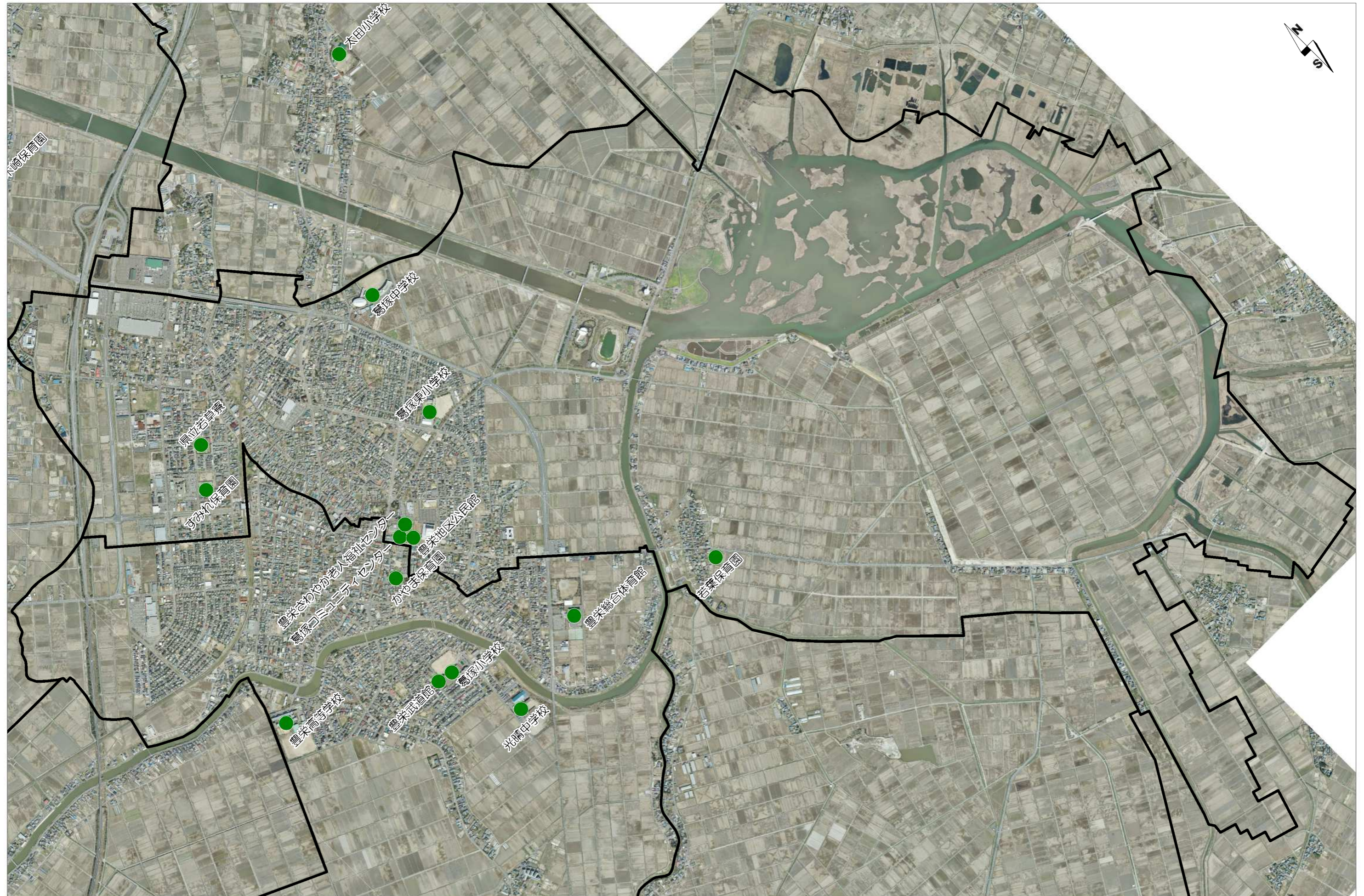
← は、断層の傾きを示しています。

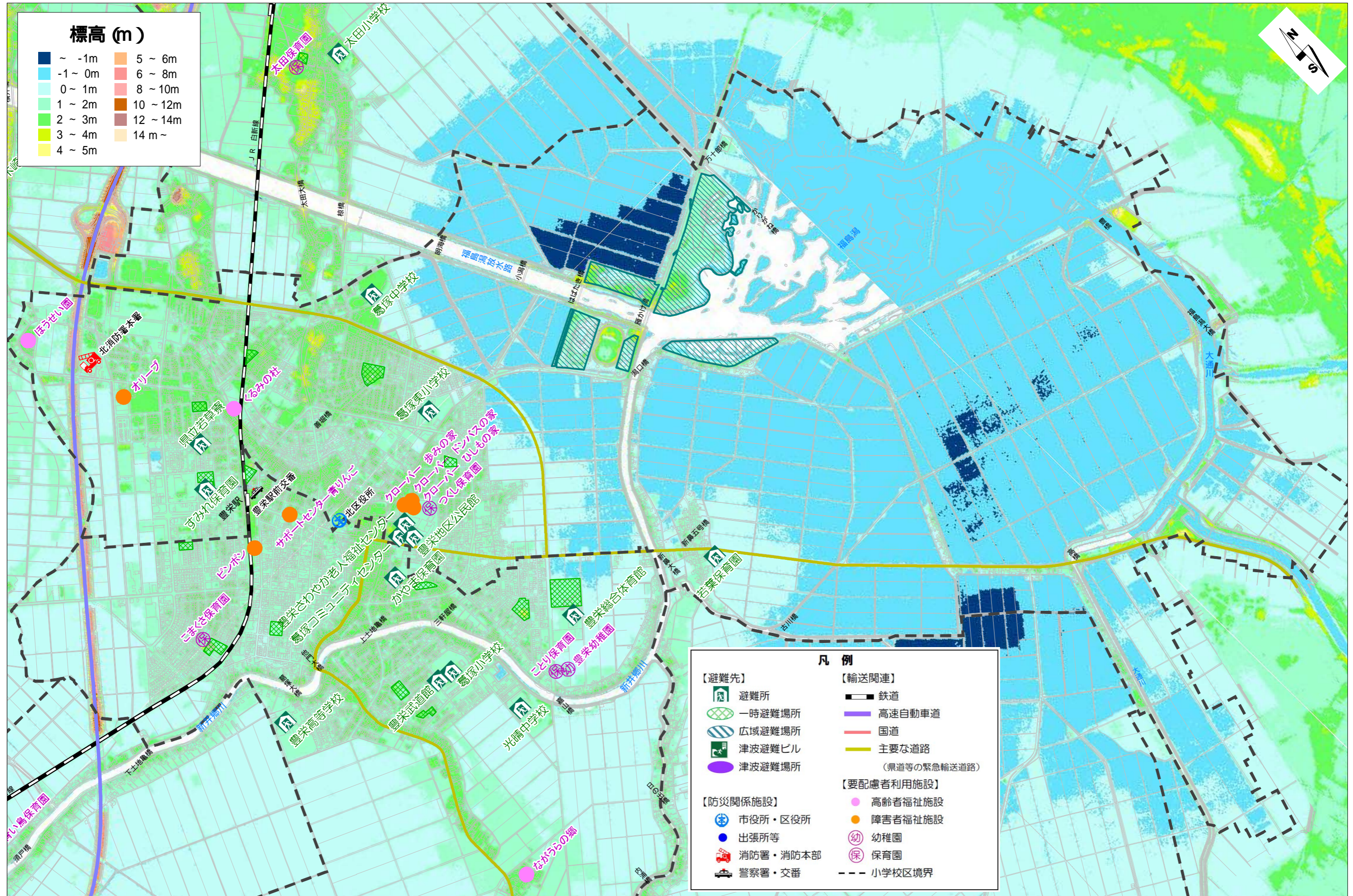


凡例	
【避難先】	【輸送関連】
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
※津波避難ビルは、様式5に掲載	主要な道路 (県道等の緊急輸送道路)
【防災関係施設】	【要配慮者利用施設】
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
小学校区境界	河川、水面

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

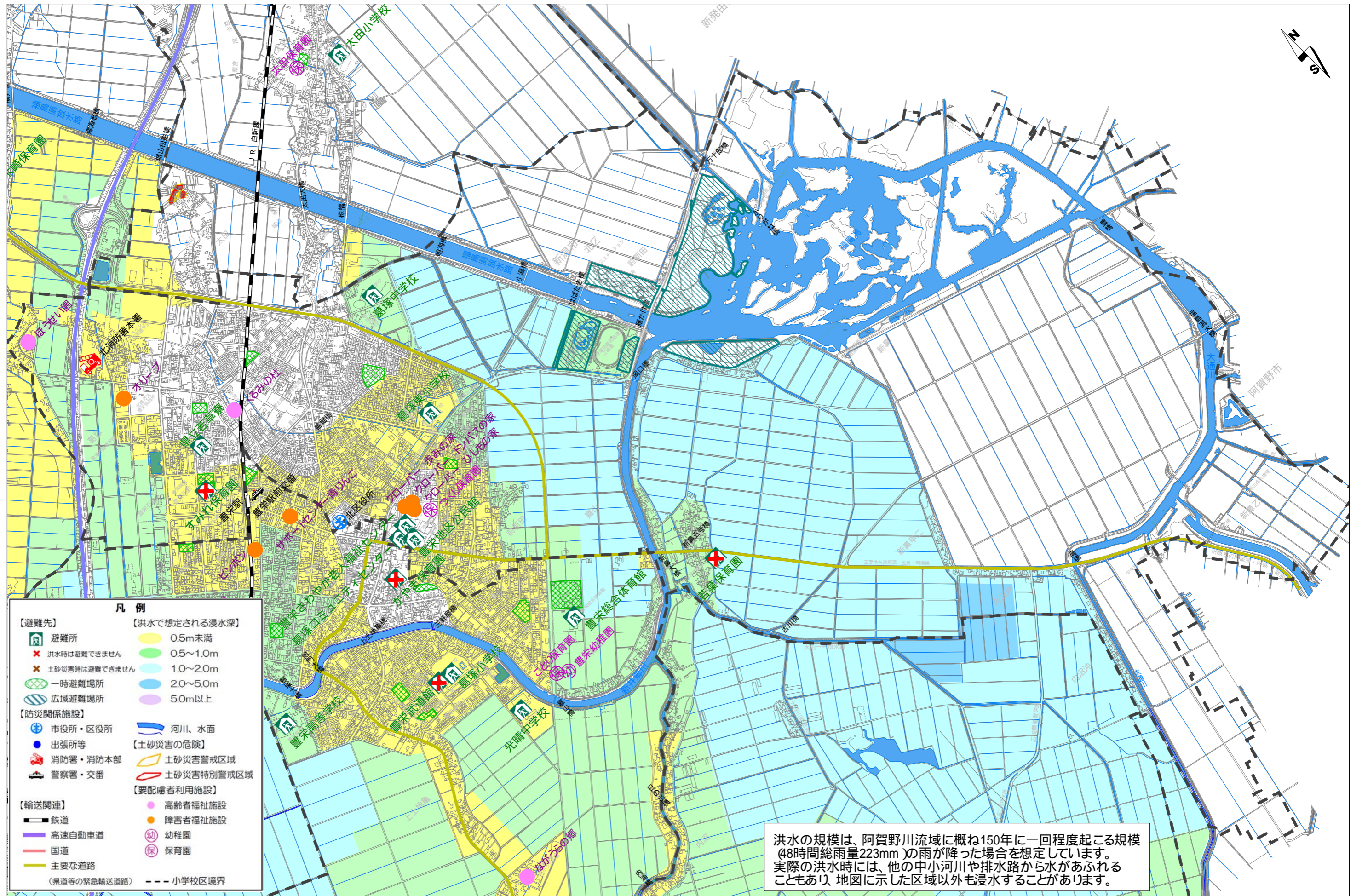
0 500 1,000 1,500 2,000m





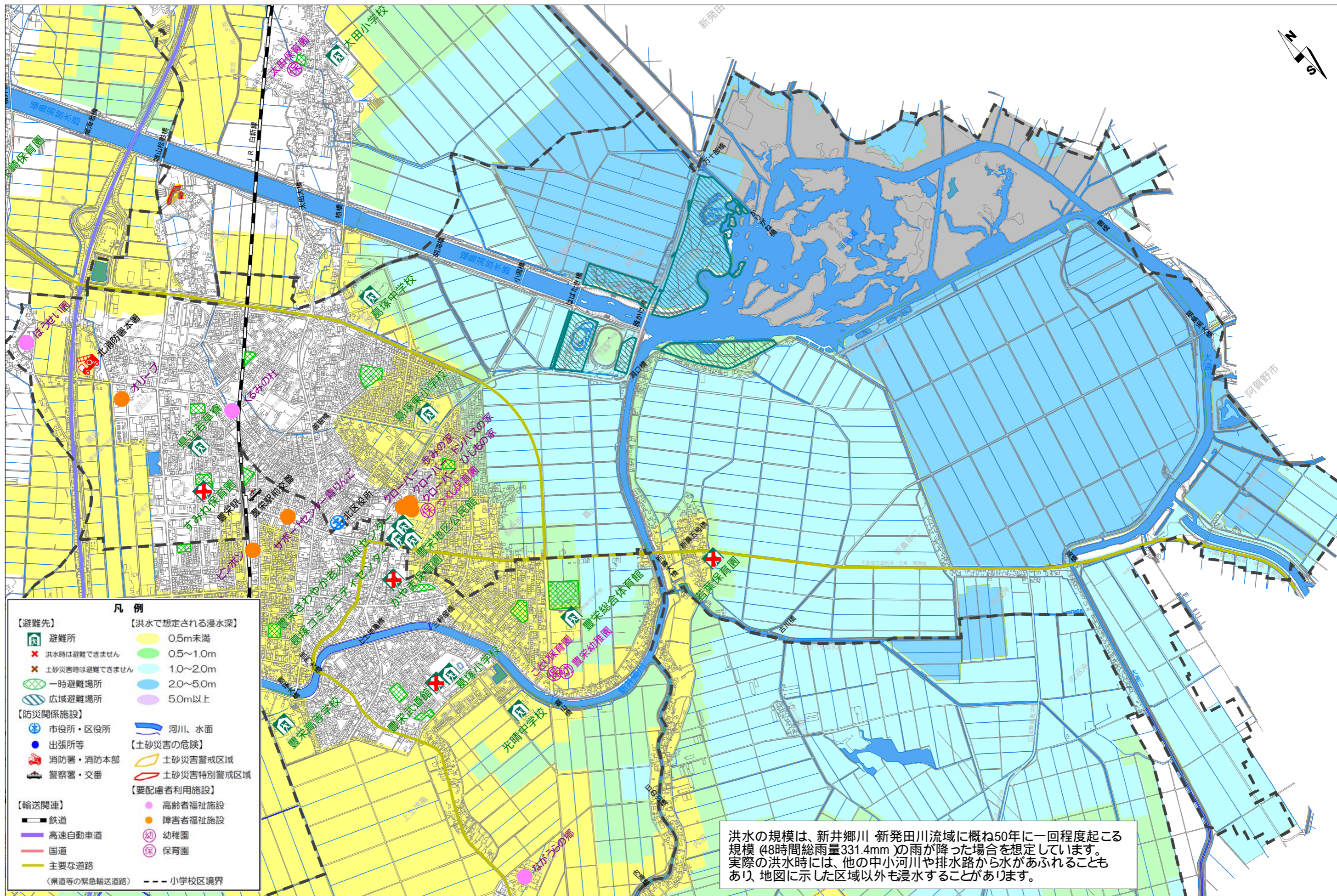
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)

0 500 1,000 1,500 2,000m



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)

0 500 1,000 1,500 2,000m



洪水の規模は、新井郷川 新発田川流域に概ね50年に一回程度起こる規模(48時間総雨量331.4mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 新井郷川 新井郷川分水路 福島潟 福島潟放水路及び派川加治川浸水想定区域(新潟県,平成16年6月23日)

